

授業について、高麗大学について

122001 診療放射線学部 1年

石井 歩

1、授業について

私たちは、韓国訪問3日目の9月19日に高麗大学校にて授業を受けました。この授業は放射線科3年生の放射線治療に関する内容で、**IMRT**（強度変調放射線治療）についての授業でした。

IMRTとは、コンピュータの助けを借りて腫瘍部分のみに放射線を集中照射して治す照射技術です。これによって、従来の方法では不可能だった理想的な放射線治療が可能となり、腫瘍制御率の向上や合併症の軽減が期待されます。**IMRT**はコンピュータによる治療計画（インバースプラン）の計算通りの照射を可能にする、コンピュータ制御の特殊照射法に特徴があります。インバースプランは何千、何万通りもある照射法の中から最適な方法を算出して、理想的なビームパターンを作成します。さらに、コンピュータがマルチリーフコリメータという装置を制御して計算通りの照射を行います。**IMRT**では各放射線ビーム内の強度は照射野の中の各点で異なりますが、最終的には全てのビームの分布を合計すると目的の線量分布が実現されるのです。

私は診療放射線学部にて在籍しているものの、まだ専門的なことはほとんど授業でやっていないため内容については初めて聞く言葉ばかりだったし、その上この授業は英語で行われたため、あまりわかりませんでした。しかし、この授業を受けたことで、**IMRT**に興味を湧き、早く自分もちゃんと授業を受けてみたいな、と思いました。そして、日本語での授業を受けた後に英語での授業を受けたら、授業に対する印象も変わると思うので、学年が上がったらもう一度今回の授業を受けてみたいです。

2、高麗大学について

高麗大学は、1905年に設立された普成専門学校から経営を引き継いだ金性洙により、1946年に総合大学として創設されました。国立大学のソウル大学や延世大学と肩を並べる韓国屈指の進学校で、高校在学時の成績が上位1%に入っていないと入学できないと言われるほどです。しばしば日本の早稲田大学に例

えられ、早稲田大学と協定校の関係にあります。また、我が校とも学術交流協定を締結し、交換留学などで交流を深めています。



高麗大学は100周年の記念事業のもとにほとんどの校舎が新しく建設・改築されたため、とても奇麗で最新の設備が整っていました。広大なキャンパスの中には、40余万冊の本を保管する図書館や学生広場をはじめ、ファーストフードやアイスリンクなどもあります。しかし、校舎内の最新の設備とは反対に、キャンパス内はたくさんの緑であふれていて、気持ちよく過ごすことができました。それと同時に、敷地が広いためか階段や坂が多く、移動が大変だという印象も受けました。そのためなのか、キャンパス内を走るシャトルバスがあることには驚きました。

そして、授業についてでも書いたように、授業は英語で行われます。まだすべての学部の授業が英語で行われているわけではありませんが、授業の半数を英語での授業にすることを目標としているようです。もちろん英語での授業を受けるためには、ある程度の英語力が必要になります。この英語での授業を当たり前のように受けている高麗大学の学生は、頭がいいという印象を受けました。話を聞いてみると、小学校から英語の授業があり、人によっては幼稚園の時から英語を勉強しているという人もいて、そもそも韓国は日本よりも英語の学習に熱心だなと感じました。そのため、高麗大学の学生さんは真面目で堅い

イメージがあったのですが、交流会ではとてもフレンドリーに話してくれ、日本の大学生とそれほど変わらないなと思いました。また、この交流会では高麗大学の学生さんとのコミュニケーションをとる時に、自分の言いたいことを英語で表現できない悔しさやもどかしさを感じるとともに、流暢な英語を聞いてたくさんの刺激をもらうことができました。

100年以上の歴史を持ちながら、様々な最先端の施設を兼ね備えている高麗大学は素晴らしいなと思いました。今回の学生さんとの交流を通して、いい影響を受けることもできました。本当に、高麗大学を見学することができてよかったです。